



共同通信



2006年11月9日 123号(333号)

日本基督教団 西宮共同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町 10-22
0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email:koudou@gamma.ocn.ne.jp
<http://www.koudou.jp/> 振替 01170-3-4901
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、
笑い 泣き 歯ざしりをした 自分の人生を語ってほしい、
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

To tell the story 23

「夏休み友達3人とタイに行って来ました～」

初めまして石田航平です。関西学院大学社会学部3回生で共同幼稚園卒園生です。夢はいっぱいありすぎて困るくらいですが、人を幸せに出来ることをしたい!という思いが根幹にあります。今回は夏休みのタイでの体験を書かせていただきたいと思います。

『出発』

9月11日出発。1年で一番飛行機に乗りたくない日に出発することになった。何か嫌な予感がする…。当って欲しくない予感ほど当ってしまうというのが僕らしさ、この日も当然見事にビンゴ!さすが9.11、さすが俺。飛行機の空調のトラブル発生、搭乗ゲート前で7時間待ち決定。出国したが入国してないという

中途半端な状態、映画『ターミナル』のトム・ハンクスの状態。7時間は長かった、ある人は暇潰しのために持ってきたロジック本を1冊終わらせた。ある人はタイ語をマスターした。僕は関空のPCを借りて春学期の成績を確認し秋学期の履修を考えた。

『タイの地に降り立つ』

到着は夜の1時。何もできずホテルに直行し、ホテル周辺を散歩がてらコンビニへ。そこでいきなりの恐怖体験。道で寝ていらっしゃる犬様に追っかけられたのである。『邪魔ですいません、日本に帰りますから～』と心の中で叫びながら激走した100mのタイムは世界記録を軽く更新する速さだったに違いない。あんな

に速く走れた事は今までも、これからはもうないだろう。

『乗り物』

バンコクには電車、地下鉄はもちろん、バイクタクシーやトゥクトゥクという日本には見られない乗り物がある。電車、地下鉄は日本同様区間で料金が決まっているのだが、あとの乗り物は交渉。僕らはトゥクトゥクにはまった。見た目はデコトラみたいに派手なオート3輪。運転手に目的地を告げた所から交渉スタート、だいたい最初に言われた値段の半値くらいまでは下げられる。この交渉がたまらなく面白く、運転手にウンザリされるまで値切る事に成功。関西人は世界でも強い。

『買い物』

ナイトバザールというのが毎夜開催されている、雰囲気は神戸の高架下みたいな感じで、迷路みたいな作りの上規模が大きすぎるため全部は見れない。買い物も当然交渉。やはり半額くらいになる。噂には聞いていたがブランド品がワンサカワンサカ。ただし本物かどうかは保証できません。気になる方は自分の目で確かめに行ってください。僕は靴を買った、アシックスのオニツカタイガーと思われる一品。実によくできてます。履き心地も抜群！でも生地が怪しい…。ただ安かったからお値段以上の買い物に満足。しかもその靴をはいてからというもの、タイ人が急にフレンドリーになりタイ人に認められた気

がした。靴を見たらその人の身分がわかるというのは本当かも。

『料理』

タイ料理は辛いだけじゃありません。甘くてすっぱくて辛いんです。甘くて辛い。ありえない表現をしたが、ありえない味なんだから仕方がない。タイ人が好きなもの程日本人の口には合わないようだ。でも世界3大スープのトムヤムクンや、タイ風焼そばパッタイは本当に美味しかった。またフルーツは抜群に美味しく、ランブータンのような日本では目にかかれなものを満喫。

『物価』

物価は物によるが日本の3分の1から10分の1くらい。タイ式マッサージは2時間で1500円だったから相当安いはず。電車は初乗りが15円くらい。ただこれは日本人の感覚だから安いのであり、タイ人の年収から考えたら妥当な値段なんだろう。そんな事を考えると少し複雑な気持ちになる。

『帰国』

ほんとに楽しかったかタイに別れを告げるのは悲しく、3人で来年も行こうと約束を交した。帰りは無事に飛行機にも乗れたが、珍しく酔ってしまい最悪のフライトとなってしまった。それからすぐタイでクーデターが起こったことには驚いた。

(石田航平)

いったいどれが真の自己なのか・・・この間への無関心は、それが根拠のない問であることを意味しているわけではない。世間人としての類落（M・ハイデガー）が、その問に注意を払わないようにさせているだけのことなのだ。また真の自己の探求が不毛に終わることが多いとしても、その問は答のない問、つまり根拠がない問であると決めつけて、その探求者を愚か者扱いにするのも間違っている。（「生の欲動」作田啓一）

イザヤ書が、神からの語りかけとして「あなたをあがない、あなたを胎内に作られた主はこう言われる」（4章24節）と書いたりする言葉は、どこから生まれてくるのだろうか。

イザヤ書は“神が人を贖う”と言います。たとえば、人の愚かさを至上のもの（たとえば神）にゆだね、ととりなしを祈るなどのことはそんなに珍しいことではありません。“神が人を贖う”のは、神がその存在において“対価”を払うことを意味します。直接神の口から“神の言葉”でそれを示すのがイザヤ書です。神という圧倒

的に“上位”にあるはずの存在が、自らを低くして人と向かい合うのです。ただ、そのように向かい合いますということではなく、という“思想”があって、こんな関係のこんな言葉になっています。言ってみれば、神という圧倒的に上位にある存在が、自らを低くすることによって、人と“対等”に向かい合うのです。というような呼びかけは、そのことによって“何かが起こる”ことを期待させずにはおかないし、だからこそ神は人を贖うのです。というのが、この場合の古代の人たちの“思想”であります。

日本基督教団西宮公会集會案内		
早天祈祷会	毎月1日午前6時30分から	於：西宮公会集會室
教会学校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮公会禮拜堂
聖日禮拜	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮公会禮拜堂
聖書研究祈祷会	毎月第1・3水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
読書会	毎月第2・4水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
ゆっくり聖書を讀む会	毎月第3火曜日午前10時から	於：西宮公会集會室

そして“・・・母の胎内にいたときからおまえを造ったヤハウエ(主)はこう言う”と人の生命の始まりを、奥深い射程をもって、イザヤ書を書いた人は見つめています。だから、人の生命はおろそかにしてはならないとも。理念としてのそれではなく、生命の躍動を知ってそれを見つめ、こんな言葉にまとめています。母の胎内にやどった生命は、その瞬間から生命活動を始めます。しかもその生命は、もし気付くことができれば、生命としての発信を始めています。生命の躍動はやがて、手で触れることも、耳で聞くことも可能になってきます。ということが“・・・母の胎内にいたときからおまえを造った”などの言葉になりました。言葉になっているはずです。これらのことは、人の営みについての強い関心と深い洞察があってはじめて言い得ることです。更にそれを、神からの使信ししんとして書き記したところに、この場合の古代の人たちの高い見識が示されています。

というようなことが書かれた歴史的背景(紀元前6～7世紀)を少なからず考慮する時、見識を自慢している訳ではなく、愚かに生きて、深く傷ついた人たちがいたこと、そのことを本気で見つめようとしている人た

ちの言葉であるらしいことが解ります。

たとえば、「賢い者をうしろに退ける、その知識を愚かにする」(イザヤ書44章25節)ヤハウエ(主)は、なんと敵対者であるアッシリア王のキュロスを「彼はわが牧者」(イザヤ書44章28節)と言ってはばかりません。こうして、イザヤ書が“知恵”について言及する時に思い起こすのが「・・・愚かな者にその愚かさにしたがって答をするな、自分も彼と同じようにならないためだ。愚かな者にその愚かさにしたがって答をせよ。彼が自分の目に自らを知恵ある者と見ないためだ。」(箴言26章4、5節)です。人が与えられている(持っている)知恵は、使い方、使われ方によっていかようにでもなります。知恵を働かせた結果、とんでもない悲惨な状況を引き寄せることになる場合だってあり得ます。“知恵ある者を退け、その知識を無意味にする”と言っておいて、ペルシア王のキュロスを“わたしの羊飼い”と言います。征服者のキュロスをそう言うのは、学ばないのは、学ぶに値するものがあるなら、たとえ敵対者であってもそれに学ぶことこそが知恵であると言いたいのかも知れません。のんきに、敵対者を賛美している訳ではな

いのです。同じように、イザヤ書(イザヤ書を書いた古代の人)は、目の前で繰り広げられている“世界”にも強い関心を持って見つめようとしています。「・・・わたしはよろずのものを造り、ただわたしだけが天をのべ、地をひらき・・・」(44章24節)。“わたしが万物を造った者”“ただ独りで天を張り広げた”“地を広げた”などの言葉には、そうして手を下したことの自負心で満ちています。宇宙を“ただ独りで張り広げた”など

と言ってしまうことで、宇宙が矮小なものになったりもしません。他の誰でもない自らが向かいあう世界への強い関心がこれらの言葉になって、ただの大法螺になってしまうことから救っています。この世界を自分ほど深く強く大切なものとして見つめたものがあるだろうか、と問いかけているのです。

(菅澤邦明)

2006年11月 あんなこと こんなこと...

- 1月 日(水) 早天祈祷会
- 1月 日(金・祝) 幼稚園運動会 2006
- 1月 1日(土) 午前1時~、公同まつり 2006

にしきた商店街...

- ・1月 日(木) 午後1時30分~、津門川掃除
- ・1月 日(日) 午後2時30分~、津門川塾打ち合わせ
- ・1月 日(火) 午後1時~3時、にしきた街舞台実行委員会

アートガレーヂ

- ・野菜市：1月7日(火)、2日(火)

関西神学塾

- ・1月 1日(金) 桑原重夫先生「使徒行伝を読んでみよう」
- ・1月 1日(金) 勝村弘也先生「死海文書を読む」
- ・1月 2日(金) 田川建三先生「マルコ福音書註解」

ア コ ー ク ロ ー 通 信 (1 0 4)

沖縄県知事選挙は11月19日が投票日です。沖縄では、基地問題もあり、基本的に保守対革新の一騎打ちです。基地はいらないという候補と現実的に容認するという候補との闘いが、沖縄では続いています。有権者の針は時として揺れ動きます。一貫して「基地反対」となるわけではありません。有権者の針は右に左に振れるのです。

いつもなら熱くなる選挙戦も今回は、候補者選定が遅れたことやそのしこりもあって、あまり盛り上がりてはいないように見えます。ある革新系の候補予定者のグループは選定されなかった腹いせに「自由投票」を決定しました。「しこり」はかなり重症で、「しらけた」と公言している人々もいます。また今年沖縄は選挙だらけでした。その疲れもあるでしょう。選挙の宣伝カーも多くなるところからそのように思えるのです。五分の闘いと見ていましたが、世の右傾化傾向ともども「向こう側」が勝つかもかもしれません。もっとも、その「向こう側」もスキャンダルが多く「こちら側」優勢と見る人もいますがどうでしょうか。

「障がい者自立支援法」は本当に大変です。国の財政難を理由に、障が

い者が施設に来て働いて、それで利用料を取るといいますからムチャなのです。そのムチャが成り立っているところがこの国の現状です。

沖縄のこと(基地問題やら)に関心を寄せる人々も、沖縄の児童養護施設や障がい者の施設がどうなっているか、興味はないのでしょうか、と嫌味のひとつも言いたくなるのです。

そういえば、かの沖縄県知事選挙の候補者マニフェストも福祉なんかまるで考えていないようです。国の法律や制度の中で県独自の政策は何もないかのようです。結局、どちらが知事になっても大して変わらない、そう思われていることに候補者やブレーンは気がつくべきです。もしかすると投票率、とてつもなく低くなりそうです。

そんな中、うちの施設「愛の園」は、みんなで10月27日から29日まで、東京に旅行に行きます。ディズニーランドと東伊豆の温泉です。「県外旅行」は2003年関西に行つて以来です。3年間お金を貯めての旅行です。沖縄は、どこに行くにも飛行機に乗らなければなりません。これは決して簡単なことではありません。「知的障がい者」は、パニックや失禁の可能性もあります。「てんかん発

作」のある人も少なくありません。不思議に見えるこだわり行動もあります。加えて、私たちの施設は通所ですから夜の姿はあまり見ていません。ですから、何が起こるかわかりません。今までは、それでも貯めるお金があったのですが、それも、もうできません。園の利用者も高齢化しています。ですから、ほとんど、たぶん、これが最後の「県外旅行」になるかもしれないのです。

先日、久しぶりに、那覇の町を中国との交流という視点で歩いてみました。その多くが沖縄戦で焼失したとはいえ、それで再建しないままのところもあるのですが、必然的に復活した建物もあります。新しい沖縄の歩き方みたいなことを考えさせられ

ました。

「論文」は、まだまだです。今頃になって、余計なことをやり始めたと後悔しています。「キリスト教主義」の学校ではないので、韓国のキリスト教にどれほどの意味があるのか問われたり、なおかつキリスト教というか宗教を思想として社会学として取り扱うことにも余り理解が得られず苦悩、苦闘しています。「韓国・キリスト教・家族」という三題話みたいな内容もいまいちウケが良くありません。とはいえ、書くしかなく、我ながらよくやるよと思っています。

(沖縄・与那原・愛の園 後藤 聡)

私が出会ったいろんな人たち

2006年10月21日(土)に、公会堂の礼拝堂にて『ソウル・フラワー・モノノケサミット』のライブが行われました。約200人が集まって礼拝堂が活気あふれたひとときとなった。このライブは、兵庫教区の教育部委員会から提案がなされ、「教育/教育基本法改正」について考えたいという意見が出され、話し合いが行われるうちに、「ソウル・フラワー・モノノケサミット」のライブを行お

う！彼らの音楽、また彼らの生き方を見る時に、教育とは何なのかを新しい視点から見ることができるのではないか」というふうにまとめ、ライブ実行委員が中心になってこの日のライブの準備がなされることになったのです。

ライブに訪れた方に、資料として『わたしの教育/わたしの教育基本法』というブックレットが配布された(当日のみ配布で、現在は1冊50

0円で販売しています)。実行委員の中から、「内容のある資料を配付したい」という声があがり、実行委員を中心に教育に携わっている教師や親、教育を現在受けている人、また今まで受けてきた教育について等、さまざまな視点から文章が集められ、そして1冊は家に大事に持っておきたいなと思えるような貴重なブックレットとして完成しました。

実行委員の一人として文章を書くことになり、私が受けてきた教育について色んな事を思い出していました。最終的には家庭での教育について書くことになりましたが、今まで本当にたくさんの「人」に出会ってきたなあと思います。

教育現場で出会った最高の先生は「鈴木宏行先生」です。小学校3年・4年の担任でした。今でも懐かしく思い出します。小学校2年生の時の担任の先生から受けた教育というか、毎日の出来事がトラウマのようにつらい出来事として残っていることもあり、3年生で引っ越しをし、その時初めて男の先生に当たり、「鈴木先生」に出会いました。先生の授業の教え方はとてもおもしろくて、当時の私も本当に楽しんでいました。先生は30代前半の教師になりたての若い先生でしたが、自分のことを「18才のウルトラマン」と言って子どもたちをいつも笑わせていました。美術の授業では、赤・黄・青の3色の絵の具しか使わせてもらえず、その3色を使って色んな色を作るように言

われていました。すぐに「みどり」や「むらさき」「ピンク」などの色絵の具を使いたがる子どもたちに、色が生み出される過程を教えてくださいました。

リクリエーションの時間には2チームに分かれて大豆を投げ合って教室中大豆だらけにしながら、大豆のぶつけ合い?をした覚えもあります。そんな時先生はわざわざゴーグルや立体マスクをして、子どもたちと一緒に大豆をぶつけあっていました。大豆を箸で拾う競争などもした覚えがあります。当時、元気の良すぎたわたしは、あまり教師に好かれるタイプの子どもではありませんでしたが、鈴木先生は本当にかわいがってくださいました。

子どもたちの間で「悲惨!」という言葉がはやったことがありました。「ひっさ~ん!」などとすぐに口にしていました。そんなとき帰りのホームルームで先生がみんなに「悲惨」について話しをしてくれました。悲惨という言葉の意味。どんな状態のことを悲惨というのか、簡単に使える言葉ではないのだということ、まだ小学3年生だった私たちに向かって真剣に話をして下さいました。今から思うと、本当に先生は子どもたちを愛して下さっていたのだと感じます。当時の私は私なりに「悲惨」という言葉の意味を知りました。

そんな小学生時代の先生のことを思い出しながら、「教育」について思いを馳せる時間を持ちました。

(田中知恵)

いろんな秋を目一杯楽しんでいきます！！

幼稚園の園庭には、ぎんなんの実がなり、木の下にはたくさんのオレンジ色の実が落ちています。「くさい～！！」と言いながらも拾って運んでくれるお友達なのです。おさんぽに行くと、どんぐりやまつぼっくりを拾ってポケットに入れたり、柿やザクロの木を見つけたりと秋をいっぱい感じながら毎日を過ごしている子どもたちです。

甲山登山の日は、「甲山の頂上で会おうね～！！」と、学年ごとに幼稚園を出発しました。ぽっぽさんはバスで、さんぽ・らったさんは電車で、年長さんは歩いて！それぞれルートは違うけれど、目指す場所は同じです。おしゃべりしながら歩いていると、プリンの形をした甲山が目の前に見え、だんだん近づいてきました！！「あー！！かぶとやま～！！」と、なんとも嬉しそうな顔「プリンやまや～！」なんて言っているお友達もいたのです。山道に入ると、やっぱり宝物がたくさん　どんぐりやどんぐりの帽子、木の実などいろんなものを見つけては「いいものみ～つけた」と見せてくれて、大事にポケットの中に入れるのです。道なき道を進んでいくのが共同幼稚園！草をかきわけ、くもの巣があったって大丈夫！自分の足で踏ん張って、自分の力で登っていったのです。年長さんの最後の道は、最難関！！ずるずると滑っても、手をつけて足でしっかりと踏ん張り、頂上を目指

したのでした。上のほうから「がんばれー！！」「もうすぐ頂上だよ～！」と声が聞こえてきました。先に頂上に着いていたぽっぽさんやさんぽ・らったさんたちです。みんなに笑顔で迎えられ、到着した瞬間は本当に嬉しかった～　そんな風に、再会を果たしたのでした。

青空の下、頂上で食べたお弁当はやっぱり最高！！たくましくなった子どもたちの姿を見ることができ、みんなの成長を感じた1日となりました。

秋といえば、おいもほり！！今年も畑のさつまいもが育ち、みんなでおいもほりの時を楽しみました。6月に植えたさつまいもの苗、夏が過ぎ、秋になり、畑に来るたびに「おいもほりまだかな～？」って楽しみにしていたお友達です。

軍手をはめて、さぁおいもほりです！土の中からひょっこりと顔を出しているおいも、「あったー！」と、中から出てきたのは大きいのだったり、細長いのだったり～。どんな形でも1つのさつまいもです。「これはチビチビやな。」と小さいの、まん丸のもあって、出てくるたびに「こんなんやった～。」と見せてくれるのでした。

今年はいあまり出来が良くないかも・・・と心配されていましたが、それでも90kgのさつまいもが掘れました！！とれたてを、ふかし芋にして早速いただきました。小さ

いのも甘い！これが今年のさつまいもです

毎日の中で、たくさんたくさん秋を感じる事ができています。そんな毎日に感謝の気持ちを忘れず、これからも過ごしていきたいと思っています。

(近山 佳奈)

教会学校から

《1月の活動報告》

- 1月 日(日) 但馬教会の田中さんのお米でおいしい“ちらし寿司”を食べました。
- 1月 日(日) ハサミと色紙を使って、切り紙をたのしみました。
- 1月 日(日) 秋の六甲登山に出掛けました。晴天の中長峰山を歩きました。
- 1月 日(日) 幼稚園の子どもたちと一緒に積木で大きな船を作りました。
- 1月 日(日) 風船の中にスライムが！！驚くスライムを作りました。
- 1月 日(日) 谷村先生の指導でクリスマスキャンドルを作りました。公同まつりに向けてぎんなん拾いやむかご集めもしました。
- 1月 日(金) 幼稚園の運動会に参加しました。チョンチョンキジムナーの曲にあわせてダンスをしたり、リレーでおもいきり走りまわりました。

《1月の活動予定》

- 1月 日(日) 柿むき競争！そしてお芋・むかごご飯を食べる。
- 1月 日(土) 公同まつり 2006
- 1月 日(日) ぼくたちも、「射的」をしよう！
- 1月 日(日) 福永年久さんの話しをきこう！
- 1月 日(日) クリスマスキャンドル・クリスマスリースを作ろう！

たのしい学習塾

小学校1年生～4年生対象（教会学校登録者に限る）

日時 ...毎週土曜日午後3～5時

場所 ...西宮共同教会 1階集会室（日によって異なります）

参加費 ...450円（月/約4回、教材費含む）

小学校5年生以上（教会学校登録者に限る）

日時 ...毎週土曜日午後7～9時

場所 ...西宮共同教会 1階集会室

参加費 ...450円（月/約4回、教材費含む）

“学ぶことが嫌いにならない” “学ぶことが楽しくなる” 学習塾です。根気よく付き合ってくれる愉快的なスタッフが揃っています！申し込みを希望される方は事務所までお申し出下さい。

大切な贈り物・津門川 5 1

“ 津門川と出会って ”

思えば津門川と出会って20数年になる。そしてここ10年はこの川沿いのマンションに住むこととなり、毎日川をながめ川と共に(?!)生活してきた。季節ごとにいろいろな植物がぐんぐん成長し・・・と思ったら、ある日きれいにサンパツされていたりする。大雨が降れば水はどんどん増え、するとパパが“ うちが5階だから大丈夫だ ” などと勝手な発言をして家族のひんしゆくをかったりした。

子どもが小さい頃はよくおもちゃやボールを落とし、自ら入ったことも数回！息子は人が何か落とした時も、すすんで降りていっていたので何回川に入ったことだろう。そうそう真新しい子どもが乗ってあそぶ車！あれも、ほとんど遊ぶことなくさっさと息子が落としてしまった(その上回収することもできなかったはず)教会学校に通う(と言ってもよくさぼる)ようになってからは園庭で充分にあそんだ後、地域のみなさんに交じってわが家の子どもたちも川掃除に参加させていただくこともあった。息子が中学で生徒会長に立候補した時も、“ 川を美しく守っていきましょう ” みたいなことをかっこよく

言ったらしく、そのことについては、今後の彼の活躍を大いに期待しよう？！

街のみんなが川に目を向け、たくさんの生き物が楽しめるようになったこの津門川。今、園での生活の中でぼっぼさんやプレぼっぼさんと足を止め、川をながめてどれだけゆったりとした時間を過ごしたことだろう。

何をするでもなく、どこへ行くでもなく、小さな子どもたちと園を出て、川沿いを散歩するだけで、とても楽しい時間が流れていく。

この春からは川沿いのマンションを引っ越し、門戸の方から通う毎日となったが、毎朝ずっと川に沿って自転車を走らせてくる。たくさんの親子に出会うのも嬉しい。声を掛けながらも、ただただ必死でこいで園へと急ぐ。きっとこれからもこの川をながめながらの生活が続いていくことだろう。

(福西かをり)

まいの勝手に何でも案内

さあ2006年も残すところあと2ヶ月となりました、皆様いかがお過ごしでしょうか。ワタクシ、こないだ久々に公同教会に顔出しましたら、沢山の懐かしい方々やら初めて会う方々に、こぞって「連載読んでます」と言われてしまい、嬉しいやら緊張するやらでした。いっつも締め切りギリギリに勢いだけで書き続けてるものを、あんなに沢山の方が読んでくださってるっていうのは大変有難いことですよね。これからも楽しく質の高い文章をお届けしたいと思いますので、何卒よろしくお願い致します。

さて、今回は紹介というか、ワタクシの常々思っていることを書こうと思います。思いっきり私見でしかもマニアックな話なので不快になる方がいたらごめんなさい。いきなりなんですけど「くまのプーさん」ってディズニーのオリジナルキャラクターじゃないって知ってますか？ あたしはディズニーのプーさんが嫌いです。ビデオも見たことがないけれどあのキャラクターたちが嫌いです。プーの名を名乗ってウインクするなんて許せません。ついでにディズニーのアリスも余り(っつか)かなり好きではないです。更に言いますが、映画の「ロードオブザリ

ング」が嫌いです。最初の「The」がどうかという問題じゃなくて。あと映画の「ナルニア国物語」と、ジブリの「ハウルの動く城」と「ゲド戦記」は観てないし、観る気もないです。予告と聞いた話だけでお腹いっぱいでした。

これらに共通することは「原作への思い入れ、自分が作り上げたイメージが強すぎて他の形のアプローチを見たくない」ということです。つまりは心の狭い食わず嫌いってことですけれど。でも、ここで私が思うのは「そもそも原作って何？」ということです。「原案」じゃ駄目なの？ってことです。私はアルウエンは戦わないからこそアルウエンであり、ハウルは浮気者であるからこそハウルなのであり、テルーは醜いからこそテルーなのだと思うのに、そこを変えたら元の話の根本的なイメージが狂ってしまうと思うんです。勿論ピータージャクソンやら宮崎駿やらと私の抱いたイメージや大切だと思ったところが一致するはずはないですし、ダイアナ＝ウィン＝ジョーンズやアーシュラ＝K＝ルグウィンが一体何を思って本を書いたのかも、私は知りません。でも、映画だけを見た人と、原作しか知らない人では抱くイメージが変わってくる

のは確かであり、同じ「ゲド戦記」について話してるはずなのに話が食い違って、よく聞いてみると相手は映画の話をしていて、というのも良くある話です。以前のA新聞の「ゲド戦記」の本の紹介に、「女魔法使いクモ」って記述があった時はもう泣きたくなりました。映画は本の通りじゃないんだから映画見ただけで本の話するなっつーの。というか、「ゲド戦記」について言えば、実際に原作者も映画をお気に召してなかったようです。

もうね、話すときに『タイトル(映画)』とか『タイトル(本)』とか付けてほしいです。そうすりゃもうちょい心穏やかにいられます。大体映画のゲド戦記ってどこからどこまで参考にしてるか意味分かんないんだよね。本が「影との戦い」「壊れた腕輪」「さいはての島へ」「帰還」「アースシーの風」「外伝」ってあるんだし。あれ全部2時間の映画にするとか到底無理。っていうかそもそもル＝グウィンはずっとゲドを主人公にしようと思ったんじゃないんだからさ、「ゲド戦記」っていうくくり方がおかしいですよ本当。あ、でもそれは売ろうとした結果だし、最初はそんな続くと思ってなかったから仕方ないですけど、でも「アースシーの物語」とかにしとけばよかったのに・・・すいません、脱線しました。

まあとにかく「原作」の意義には疑問

を感じるっていうのと、「映画と本を混同するな」ってマトメかな？ あ、あと「せっかく映画で興味持ったら本も読んでほしいなあ・・・」ということですかね。プーさん元のほうが品があっていいですよー！！あとこれは話を広げていくと翻訳問題にも発展するんですけどそれはまたいつか。そんなわけで、二次創作的映画には惹かれない頭の固いまいさんなのでした。それではまた来月。ご機嫌よろしゅう。

(高橋舞)

今月のあ・そ・び

戦争ごっこ

2006年10月の、イラクでのアメリカ軍兵士の死者の数が100人を越えたそうです。たとえば、サダム・フセインが“生物化学兵器を隠している”という理由でこの“戦争ごっこ”は始まりました。2～3日前佐世保に入港した米原子力軍母キティホークの甲板で大統領が勝利宣言をしてから3年、“戦争ごっこ”は今も続いています。やはり2～3日前、イラクの法廷はサダム・フセインの死刑を宣告しました。しかし、このイラクの“戦争ごっこ”は終わりそうにありません。

それがどんなに不当であっても、それまでとりあえずは国家の体をなしていたのがイラクでした。そこに外から戦争を仕掛け、政権を打倒したとしても、その国の全体が納得するはずがありません。戦争を仕掛けた時も、その後の占領体制においても、アメリカはその国の一部の人たちを手を組んでしまいました。たとえば、イラク北部からのアメリカ軍の侵攻にあたってはクルド人を利用しました。クルド人は、イラク国内の少数民族で、サダム・フセインによって弾圧されてきました。そのクルド人たちが、アメリカと手を組んでサダム・フセイン打倒に立ちあがったとしてもあり得ることです。しかし、クルド人は、イラク国内ではしょせ

ん少数派です。アメリカ軍が撤退すれば少数派のクルド人は、アメリカ軍と手を組んで少数派として弾圧されるだろうことは明らかです。アメリカが仕掛け、利用できるものはなんだったって利用したこの“戦争ごっこ”は、ユーゴスラビア解体の時に起こった民族間の殺し合いを予測させずにはおきません。一方の宗教教派を取り込んだ“戦争ごっこ”は、既に宗教教派間の殺し合いになって、アメリカ軍の死者をはるかに越える死者を生み出してしまっています。

で、どうしてイラクにおけるアメリカの戦争が“戦争ごっこ”なのか。アメリカにとって、そこから出て行ってしまえば、戦争は終わりです。しかし、アメリカの戦争で荒廃したイラクでは民族・宗教教派による血みどろの戦争が続くことになってしまいます。そうして“戦争ごっこ”ではあり得ない悲惨な戦争をイラクの人たちに強いられることとなります。

たぶん、日本国憲法9条を変えて行こうとしている人たちにとって、戦争は“戦争ごっこ”くらいにしか考えられていません。かつてこの国がしてしまった“戦争ごっこ”は、どんなに悲惨な戦争とその結果になったか、忘れてはいけないのです。

(菅澤邦明)

つとがわ
編集後記

高校生の頃に下宿でお世話になっていた家から、学校に通うのに毎日通った道路沿いに、上日寺というお寺がありました。お寺の庭には樹齢1000年と言われる“大いちょう”があって、秋になると実を落とし、道路も黄色のいちょうの葉っぱが敷きつめられていました。先日、介護施設に父を訪ね、そのお寺が近いのを思い出して行ってみることにしました。葉っぱはまだでしたが、20～30粒の小振りのいちょうの実を拾ってきました。上日寺のいちょうの実を、今は東京に住んでいて、体調を崩し元気がない叔父に届けました。同じ高校(叔父の時は旧姓中学)卒業の叔父も、上日寺の“大いちょう”を見上げながら学校を通っていたはずです。

(K)

「待つ」という事について書かれた文章を読む機会がありました。いろんな「待つ」がありますが、最近楽しんでいる私の「待つ」は、手紙を「待つ」です。近頃は携帯なんて便利なものを殆どの人が持っていて、メールをやりとりする事が増え、手紙を書かなくなりました。メールの返事もすぐに来ないと、どうしたんだろう?なんて思う始末。なんでもついついメールで済ませてしまいがち。なので手紙を書くことにしました。離れていてなかなか会えない友達、お世話になった人、たった1度の出会いでもいつまでも繋がっていられたらと思う人…。少しずつ書いています。

返事を「待つ」、楽しいです。(I)

先日、結婚した友達に赤ちゃんが産まれて早速報告してくれました!メールに画像を添付して送ってくれたのですが、旦那さんにそっくりで~とても可愛い女の赤ちゃんでした。同い年で母親になった友達の事を思っただけで感心しつつ、今度赤ちゃんに会うのが待ち遠しく、楽しみで

す

(Y)

夜、ゆっくり自転車をこぎながら空を見あげるのが好きです。たくさんの星が見られた日は、なんだかとても幸せな気分になるんです。星だけではなく、月も。10月6日のお月見。この日の月はとっても美しかったです。白く輝いていて、月の周りも明るく、たまに雲がかかるのですが、すき間から見える月もまた美しかったです。ゆったりと流れているこんな時間が好きです。

(N)

甲山・妙見山・摩耶山と10月は子どもたちとたくさん山登りをしました。ふと、「そういえば小学生の頃山登りが好きだったなぁ」と思い出しました。汗をかきながら登っている時のひんやりとした山の空気。登り切った達成感。頂上から見る景色……。など山の魅力を久しぶりに感じています。体力は少し衰えましたが、気持ちは小学生のまま!!山登りを楽しんでいます。

(Y2)

孫を保育所に迎えに。おばあちゃんの家に行くと言ってきた(自分ちならすぐなのに)話の途中に「そんなメンドーなことを」と言ったばかりに大好きな遊びのひとつ粘土を思いだし、今度買いにいこうと言ってもだめ。それでやむなく腰をあげる。おとながブーツを履いていると自分もと長靴を履く。「雨が降るといけないからね」などとわかったようなことをのたもうて。メンディングテープをはさみで切れ切りに~。「おばあちゃんがつかやすいように」とのこと。で、母親が迎えに来たら、「さびしかった」と胸にしがみついていた。小悪魔め!しかもその母親からは「甘やかさないでください」と釘をいつも刺される。

(J)